

教育・研究

## 「ダイバーシティ推進シンボルマーク」が決定しました

「ダイバーシティ推進基本方針」に基づき多様性を尊重する大学の実現を目指す九州産業大学は、学生から「ダイバーシティ推進シンボルマーク」を募集し、芸術学部生活環境デザイン学科4年の加藤大地さんのデザインが採用されました。

障がいのある方や幅広い世代の方に情報が伝わるよう配慮したユニバーサルデザインと、“すべての人が学び合い、能力を高められる大学を目指し、あらゆる人々の活躍促進に貢献する”という「SDGs 推進方針」に沿ったデザインをテーマに選ばれた加藤さんのデザインは、本学のシンボルツリーである大楠をモチーフに、大学を根、社会を幹とし、大学から社会全体に広がっていく様子を多様性を表すレインボーカラーを用いて表現しています。

このシンボルマークは、ダイバーシティ推進の啓蒙活動のツールとして、今後、本学のポスターやステッカーなどで展開していきます。



教育・研究

●ニツキンONLINE(10/29)

## 香椎のまちにプロジェクションマッピングの花火

10月29日(土)、香椎駅近くの2階建新築ビル「KASHII SQUARE」(福岡市東区香椎)のオープニングイベントとして、芸術学部ソーシャルデザイン学科岩田敦之准教授研究室の学生ら9人が、ビルの壁に花火や提灯をプロジェクションマッピングで映し出すイベントを行いました。

「縁日～縁を結ぶ日～」と銘打ったこの企画は、福岡信用金庫と株式会社JUKENから同ビルの認知と香椎のまちを盛り上げてほしいと依頼があったもので、学生たちは新型コロナウイルス感染症拡大の影響で地元の「FUKUOKA 東区花火大会」が中止になっていることや、近隣に小学校があり香椎のまちが子育て世代が多いことから、子どもたちが喜ぶ「縁日」と「花火」をキーワードに6分間の映像を制作。BGMに合わせて繰り返し流し、ビルのイメージアップと賑わいを演出しました。



教育・研究

●RKB(11/4)

## 「第24回福岡デザインアワード」大賞受賞!

芸術学部ソーシャルデザイン学科伊藤敬生教授がデザインした“海洋プラスチックごみアップサイクルプロジェクト「SEA you again」の一環として、NPO 法人おぢかアイランドツーリズム協会と小値賀町、株式会社テクノラボ(横浜市神奈川区)、シャボン玉石けん株式会社(福岡県北九州市)と共同で開発しました。

福岡県と福岡県産業デザイン協議会が主催するこのコンペティションは、オリジナリティーと市場性を有しデザインに優れた中小企業が製造・販売する商品を表彰するもので、24回目となる今回は、全国98社から120点の応募がありました。



受賞した「mu」は、伊藤研究室が参加する海洋プラスチックごみアップサイクルプロジェクト「SEA you again」の一環として、NPO 法人おぢかアイランドツーリズム協会と小値賀町、株式会社テクノラボ(横浜市神奈川区)、シャボン玉石けん株式会社(福岡県北九州市)と共同で開発しました。

また、銀賞には、コロナ禍での夏祭りの中止によりラムネが出荷できない製造会社を救おうと、同じく伊藤研究室が企画した「ラムネの涙プロジェクト」から、手作りラムネキット「ラムネ工場」と杖立温泉(熊本県阿蘇郡小国町)の新たなおみやげ「恋のぼりラムネ」が選ばれました。

教育・研究

## ビール酒造組合国際技術委員会(BCOJ)「功績賞」受賞!

生命科学部生命科学科金田弘学教授が、ビール酒造組合国際技術委員会(Brewery Convention of Japan:BCOJ)の「功績賞」を受賞しました。

ビール酒造組合国際技術委員会は、ビール醸造に関わる分析法の統一や製造技術の交流による科学的・技術的研究の促進に加えて、目的を同じとするアメリカの American Society of Brewing Chemists (ASBC) やヨーロッパの European Brewery Convention (EBC) と協働し活動しています。

金田教授は、BCOJの分析委員を5年歴任するとともに、ビールの品質劣化など香味耐久性の研究からのどごしを測る感性科学まで幅広い分野で先進的な研究を行い日本の技術力の発信に努めたこと、査読付き論文を掲載する学術雑誌「Journal of the ASBC」の編集委員(Editorial Board)を17年歴任するなど、醸造技術の国際的な発展に貢献したと評価されました。



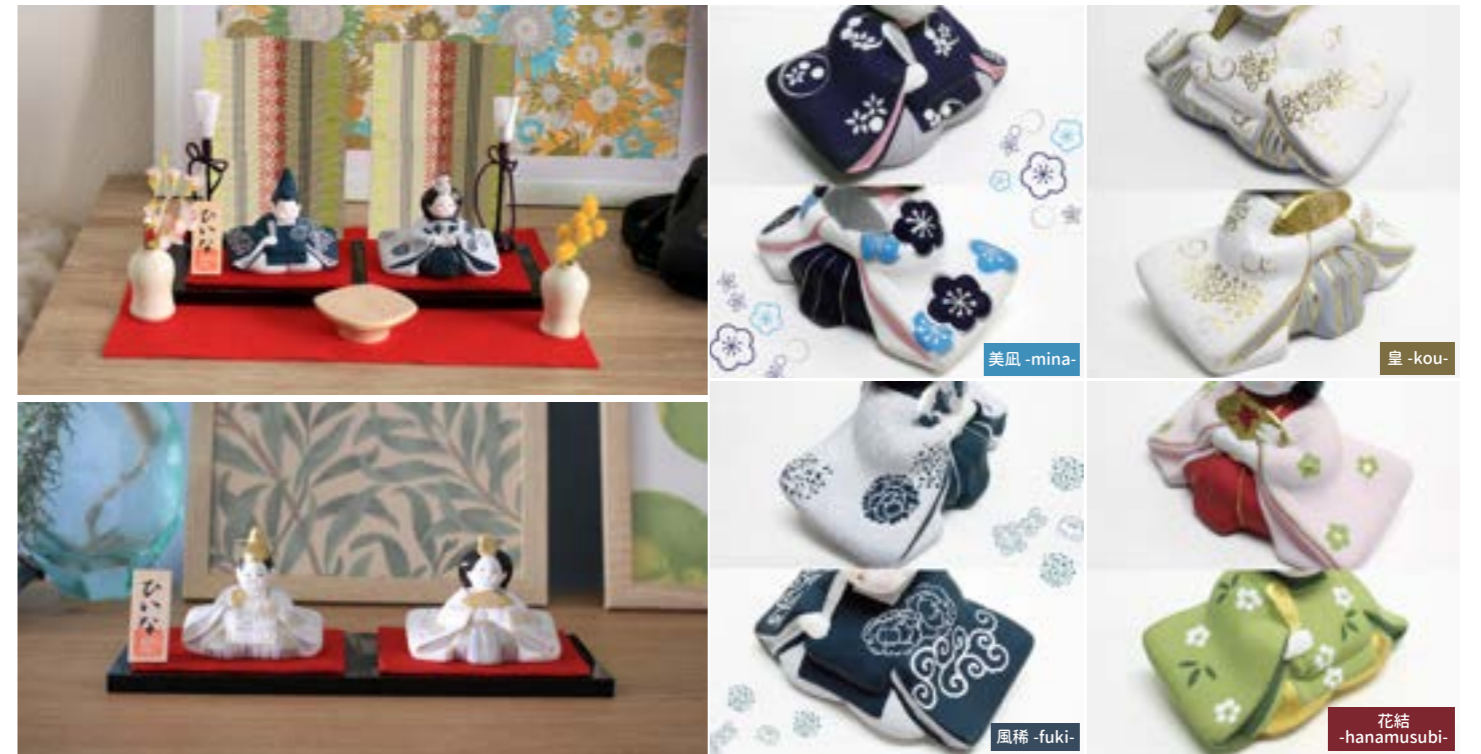
教育・研究

## 学生デザインの手のひらサイズ博多人形「ひいな」 今月まで注文受付中

芸術学部ソーシャルデザイン学科4年の安田美菜さんと後藤博多人形株式会社（春日市）が共同で開発した手のひらサイズのひな人形「ひいな」を、吉語屋株式会社（福岡市博多区）がクラウドファンディングサイト「Makuake」で注文を受け付けています。

ひいなとは、「ひな祭り」の起源とされる、平安時代に貴族の子女の間で流行したお人形遊び「ひいなあそび」から名付けたもので、20代後半から30代の大人の女性をメインターゲットに、“都会にマッチするスマートひな”をテーマとした4種類をデザインしました。

バルト海周辺国をイメージした「美凧 -mina-」、結婚式をモチーフにした上品な「皇 -kou-」、和洋室どちらにもマッチする「風稀 -fuki-」、ポップで可愛らしく柔らかい雰囲気「花結 -hanamusubi-」と名付けた4種の「ひいな」は、健やかな成長や幸せを願う日本独特の文化「ひなまつり」を気軽に楽しんでほしい、福岡の伝統工芸品「博多人形」に触れてほしいという2つの思いを込めています。



教育・研究

## 造形短期大学部学生の作品たちが天神を鮮やかに彩っています

造形短期大学部井上博樹教授と野呂英俊非常勤講師、学生7人の有志が、海洋漂着ゴミで制作した「海ごみサンドアート」とツリーオーナメントが、12月25日（日）まで大丸福岡天神店（福岡市中央区）で開催されている「2022 White Bless Christmas『冬のウミテラシ※が願うクリスマス』」に彩りを添えています。

株式会社博多大丸と対馬市、株式会社日比谷花壇、株式会社イングラと連携した「対馬 SDGs ミライテラシプロジェクト」の一環として実施したもので、対馬市での実地調査を踏まえて、同市の海に漂着した海洋プラスチックごみを使って対馬の美しい空と海を表現した縦1,800mm×横2,700mmのサンドアートと、漂着した発砲スチロールと土に戻る繊維質のアセテートを用い、ウミテラシの花を表現したオーナメントを制作しました。

11月12日（土）に開催された点灯式セレモニーでは、プロジェクトリーダーで同学部造形芸術学科1年の合田夢さんが、深刻な海洋プラごみ問題を多くの人に知ってもらいたいと他大学の学生などとともにトークセッションを実施しました。

※白い花が海一面を照らすことから呼ばれる、対馬市に群生するモクセイ科の落葉樹。



教育・研究

## 地域の6次産業化や活性化を応援する 「マルシェ」を開催

不揃いで出荷できない野菜や果物を使ってジャムなどの農業加工品販売に力を入れる企業など10店舗を集めた「マルシェ」を、11月5日（土）の香椎祭期間中に九産大キャンパス内で開催しました。

「おSUNっぽマルシェ」と銘打ったこの企画は、食の安全にこだわりつつ食品ロスを出さない思いを、ストーリーとして製品と一緒に消費者に届け、地域の6次産業化や活性化を応援するプロジェクトで、学部横断型科目「実践クロス演習（旧カリキュラム：実践力育成演習）」を受講する16人が、出店者募集から開催までこぎつけました。

